

令和5年度全国統一防火標語

「火を消して
不安を消して
つなぐ未来」

たかつき消防団だより



消防団に関する詳しい情報は

[高槻市消防団](#)

[検索](#)

第 67 号

令和5年6月15日

発行
高槻市桃園町4番30号
高槻市消防団
電話 674-7980

令和5年消防出初式

榎田分団 田能班 団員
松本 圭嗣

令和5年1月8日、高槻市消防出初式に参加いたしました。晴天に恵まれ御来賓の方々、大勢の市民の皆様に見守られる中、消防音楽隊を先頭に分列行進の入場となりました。今回私は一斉放水の簡先補助の役割を担いました。会場には高槻市各分団から消防車が集まり、個々それぞれ放水の準備を始めました。そして緊張感と高揚感の中、副団長の「放水始め！」の合図に合わせてレバーを引き放水。勢いよく水が噴き

上がりました、成功。その安堵も束の間手に持つ筒先が強い力で動くようにします。その水圧は凄まじく、渾身の力を込めた意識を集中させ筒先の角度の保持に努めました。目指すは美しく揃った水の放物線。見学に訪れている沢山の市民の方々、そして子供達に綺麗な放水を見てもらいたいと願っていた自分の役割を懸命に努めました。



淀川河川敷 鵜殿のヨシ原焼き

五領分団 上牧班 班長
岩本 光弘

ヨシ原焼きは、例年2月下旬頃に実施されるのですが、今年は天候の影響で3月12日の実施となりました。ヨシの点火は上牧実行組合と道鶴のヨシ原保存会の方たちによって実施され、五領分団は、点火時の安全確保と点火終了後の残火処理、私の上流側上牧区域の点火及び残火処理の警備責任者として参加しました。ヨシ原焼きの区域内は、約2週間晴天が続き大変よく乾いていました。9時になり点火が始まり最初はゆっくりとヨシは燃え始めました。区域

内の半ばくらいからヨシが乾燥していたのと、風と燃える際の上昇気流も手伝ってか、例年以上に勢いよく燃え始め、点火作業は無事に終わりました。その後、ヨシ原焼きの区域以外へ延焼しないようにヨシが短く刈り込んである防火帯があるので、この区域内で残火処理の担当者全員で消火水のうなどを使用し、残火処理作業を行いました。怪我人もなく無事に終了した事は幸いです。今後は、この経験をどんな状況でも対応できるように、これからのヨシ原焼きや消防団活動に活かしたいと思えます。

消防士を志して

三箇牧分団 西面班 団員
西川 佳偉斗

私は高槻市の消防士として、市民の安全・安心を守りたいと考えています。私は消防団に入団する前から消防士を目指しており、高槻市消防の試験にも、何度か挑戦していますが、力不足により合格する事ができていません。そんな時に母から「消防団に入団して経験を積んでみては。」と助言されました。消防団に入団し、実際にポンプ操作等の経験をさせてもらう事で私自身も成長できると考え、入団する事を決意しました。

総合防災訓練 フェスでの防災 物品等の展示

団本部 団員
白石 知世

高槻市全域大防災訓練の最終日、令和5年1月29日に安満遺跡公園にて実施された「総合防災訓練フェス」に出席。コロナ感染の懸念から災害時に避難所へ行かない在宅避難が注目されている事を考え、防災用品以外に普通のカップ麺を常温水で調理可能な商品がある事なども展示。エリア全体盛況で団の展示にも沢山の方が来られました。「自治会での備蓄を検討しているが、何がある」と良い？」と質問を受けました。断定はせず、迷いました。断定はせず、水や食品は各家庭でのローリングストックを薦め、見落とされがちなトイレの備えを紹介しました。わたしは入団前、発災直後水が使える場合であっても、下水管等の被害状況が確認されるまでは水洗トイレの使用をしてはいけない事を知らなかったため、伝えたい気持ちが大いかもしれません。



今回、御来場いただいた方の参考になればと思うと共に、私自身もまだまだ微力ですが今後も消防団活動を頑張ります。

令和4年度 消防団主力機械 特別点検実施 結果について

団本部 副団長
田中 義仁

- 1実施日時
令和4年11月27日(日)
9時00分～11時45分
- 2実施場所
消防本部、阿武野出張所、警手分署、榎田農協加工場駐車場
- 3実施台数
 - (1)消防ポンプ自動車 2台
 - (2)消防小型動力ポンプ 53台
 - (3)消防ポンプ積載車 47台
- 4実施結果
 - (1)消防ポンプ関係 良好
 - (2)防災資機材関係 不良
 - 投光器点灯 不良
 - 筒先の固定 不良
 - 計2件

総括

点検・整備については概ねできていた事は確認できました。普段訓練などで使うことの少ない投光器の不良は実際の夜間活動の際には大きな支障を受けることにもなります。発電機と同じく日頃の訓練時に動作確認をお願いします。そして車両の駐車時の車輪止めをしていない車も多く見られました。徹底するようにお願いします。乗る距離の少ない消防車、ポンプですがエンジンオイル、オイルエレメントは6か月に1度くらいは交換をお願いします。エンジンの長持ちにもつながります。

表彰

消防庁長官表彰

永年勤続功労章

日下部道雄(磐手分団本部)

大阪府知事表彰

消防勤続功労章

伊藤 昭久(五領分団本部)
岸田 昌範(阿武野分団本部)
前田 浩治(大冠分団本部)
二神 義治(三箇牧分団本部)
岡島 宏(富田分団本部)

消防功労章

塩見 友明(芥川分団本部)
西本 章(萩之庄班)
南本 直喜(梶原南班)
田中 雄一(山手班)
日野 建次(阿武野分団本部)
高谷 貞勝(永室班)
寺川 考之(王室班)
横山 和浩(西之川原班)
向井 幸弘(宮之川原班)
高科 久雄(如是分団本部)
川端 正彦(庄所班)
井上 敬之(富田分団)

日本消防協会会長表彰

精績章

佐藤 武彦(団本部)

勤続章

奥 正雄(団本部)
寺本 幸司(団本部)
高野 真幸(芥川分団本部)
奥田 義浩(萩之庄班)
樋口 眞(磐手分団本部)
吉田 博道(阿武野分団本部)
川上 将弘(塚脇班)
岸田 達治(冠塚班)
奥野 慎久(大塚班)
北島 弘之(芝生班)
上場 諭(庄所班)

大阪府消防協会会長表彰

永年勤続章

中野 勝也(道鶴班)
船本 里治(梶原班)
辻 清明(安満班)
宗友 慎治(別所班)
久保 秀信(成合班)
波羅 富春(塚原班)

勤続章

石田 聡志(田能班)
木村 道明(田能班)
才本 真也(唐崎班)
今井 壽司(大畑班)
好田 裕彦(西五百住班)
藤井 治輝(東五百住班)
平井 修隆(如是分団本部)
井上 和也(霊仙寺班)
山本 利昭(奈原班)
岸田 元宏(塚原班)

勤功章

辻野 知宏(高槻分団)
田中 義大(芥川分団)
岩本 光弘(上牧班)
平城 晃一(道鶴班)
池下 卓(山手班)
深海 和成(別所班)
脇田 義之(古曾部班)
田中 治之(奈佐原班)
宮本 俊彦(岡本班)
織 久寛(西之川原班)
入江 英彰(宮之川原班)
古藤 友一(大蔵司班)
川端孝一郎(下田部班)
木村 弥冠(下田部班)
高科 久雄(如是分団本部)
松田 功次(芝生班)
田淵 晴喜(三島江班)
笹井 仁志(富田分団)
畑山 健児(梶原分団本部)
橋本 和幸(高槻分団)
田中 奨之(芥川分団)

人事異動

昇任者

副団長 川上 敏弘



団本部

久野 京子

梅岡 清美

田中 薫

西川 博則

河野 哲也

井上 重和

磐手分団 班長

消防団長表彰

精績章2号表彰

岩本 光弘(上牧班)
田中 雄一(山手班)
日野 建次(阿武野分団本部)
段野 涉(塚脇班)
松本 哲雄(辻子班)
高田 裕士(西面班)
笹井 仁志(富田分団)

退団者

清水分団 西之川原班 甲田 智久
清水分団 分団長 氏原 健司



入団者

令和5年4月1日付
磐手分団 安満班 高木 彰
山手班 廣橋 孝之
山手班 竹中 駿
古曾部班 壽 夢大
古曾部班 壽 啓大
川久保班 村崎 修生
川久保班 村崎 克樹
清水分団 原班 一ツ石 英児
三箇牧分団 唐崎班 松本幸太郎
三島江班 中濱 淳司
三島江班 中野 泰男
梶原分団 田能班 田中 俊行
令和5年4月1日付

機能別入団者

阿武野分団 田中 克自
清水分団 中谷 弥
大冠分団 大西 英夫
三箇牧分団 荻内 英夫
令和5年4月1日付



施設強化補助金

安満班

磐手分団 安満班 班長 福岡 博典

この度、磐手分団安満班におきまして、消防ポンプ車格納庫・消防ポンプ積載車・可搬式消防小型動力ポンプの三点を建て替え及び更新させていただきました。

以前の消防ポンプ積載車は、防災資機材の積載

宮之川原班

清水分団 分団本部 部長 早栗 丈央

この度、宮之川原班では消防ホース乾燥台に巻上げウインチ設置とポール塗装を行いました。幸

大塚班

大冠分団 大塚班 班長 河村 雅生

この度、ポンプ格納庫の改修工事を行い消防ホース乾燥台を新しく設置させていただきました。

津之江班

如是分団 津之江班 班長 北島 泰介

当地区の自治会館の建て替えに伴い、格納庫を同時に建て替えますと言われたのが始まりになりました。補助金の申請で、

が少なく、昨今の異常気象等により、火災だけではなく風水害への対応も必要不可欠なものとなり、その対応が迅速には行えませんでした。更新したポンプ積載車は、これらの対応がスムーズに行えるようになり、安満班団員全てが今一度、市民の方々の生命・財産を守れるよう、日々の訓練に精進してまいりたいと思います。

最後に、この度の更新にあたり本部の消防団チームの皆様には、手続き



い、我々の班には塗装、ウインチ設置の作業に携わる団員がおり、施工経過を自分達の目で確認し、特にポール頂上部の塗装の傷みは酷く、下からの目視だけでは気付けないことを知りました。

防課の方々の指導のもと手続きから設置までスムーズに行えました。

大冠分団幹部の方々また、警防課の皆様には大変感謝いたします。また地元住民の方と団員との信頼関係も築け、これからは大塚班団員皆で消防団活動に励みたいと思っております。

その後は、消防本部警

話し合いの末、補助金が認定されました。事例のない建て方の申請で関係各位に非常に苦労をお掛けした事かと思えます。新格納庫は照明が全てLEDになり、夜間の作業が格段に進歩し災害にも、より柔軟に対応できる構造となりました。これからの活動は飛躍的に進化することとなり、今後の消防団活動にも大きな力となることでしよう。この建て替えを行って本

